

【守護霊と一体化した神聖の眼で世界を見つめる日】

9月27日(土)におこなわれた『動画による祈りの会』で、由佳先生は「私は最近、いつも『肉体の眼』と『神聖の眼』というふうに、自分自身の中で切りえています。」とお話しになり、その状態についてご説明くださいました。

それと同時に、「肉体の眼で日々目の前に起きている現象を見ますと、それらの現象に対してすごく心が悩んだり、悲しくなったり、辛くなったりします。また、そして戦争や災害などのニュースを見るたびに、“何かをしなければ”とか、“何かどうすればいいんだろうか”とか思ってしまう。」ともおっしゃいました。

また、次のようにもおっしゃいました。

「神聖の眼」で見てゆくと、全体を肉体の眼よりも大きく見てゆけるので、肉体の眼でいるときに心が痛んだり、悲しんだり、現象に反応したりというように、即物的に反応している心も大きく見守ってゆくことが出来ます。」

では、私たちが神聖の眼を当たり前の眼にして、どんなときも神聖の視座から世界を観るために何をどうすればよいのでしょうか？簡単に申しますと、自らの神聖を200%信じる練習から始めて、『全感謝の日常生活』を心掛けながら、『神聖の言葉とゆったり呼吸の運動』のなかで生きてゆく練習をしてゆくことです。その日々のなかで、肉眼の次元上昇が起こってまいります。

段階的な観点からそれを見ますと、肉体の眼がいきなり神聖の眼に変貌することはありません。なぜなら、人間が幼少期から青少年期を経て中高年期へ入るように、肉体の眼と神聖の眼の間にも、通るべき途中の段階があるからです。

それは、「主観的な意識が客観的な意識の段階を経て、その先に俯瞰意識の段階がある」ということです。発達心理学の用語では「メタ認知（上位の認知機能）」と呼びますが、その意識段階が神聖の眼に至る前に、誰もが経験すべき途中の意識領域になります。

「メタ認知」がどういう状態かを調べますと、以下のように種々の表現があります。

- ・自分の思考や感情、行動を客観的に把握し、適切に調整する力のこと。
- ・自分の思考や行動を客観視すること。
- ・自己の認知活動（知覚、情動、記憶、思考など）を客観的に捉え評価した上で制御すること。
- ・冷静で客観的な判断をしてくれる頭の中の自分。
- ・自分自身の理解する・考えるといった認知活動を、客観的に認知する力のこと。

このメタ認知の意識に次元の奥行きが加わり、かつ現在・過去・未来を一瞬のうちにキャッチできる視認状態が、神聖の眼と呼ばれる神眼の視界になります。

中高年に至るまでの私たちの人生には、もれなく誰もに、上位の認知機能（メタ認知）を身に修める機会が与えられています。そのチャンスを逃さず掴み、現段階で客観的にものごとを見る視座を身に修めているかどうかは、ひとりひとりの選択・決断・実行に委ねられています。

そのタイミングに早い・遅いはありません。「神聖の存在そのものとして生きよう」「人間を卒業しよう」「主観の想いをすべて守護霊様に預け神聖の眼を身に修めよう」と発心を起こし行動に繋げさえすれば、誰もが神聖の存在そのものとして、神聖の眼で世界を見つめ、すべてを抱擁する神聖人類として甦ることができます。

土曜日の夜は、神聖の眼をすでに使いこなして世界を抱擁している方々と、もう少しで開眼して世界を抱擁する方々が一同に集い、波動の交流を通じて全員がもれなく神聖の眼で世界を見つめ、今まで良し悪しのジャッジで批判・非難・評価してきた全存在を抱きしめ、天に抱き参る時間にしてまいります。

【始めのお話】

斎藤：皆さん、こんばんは。土曜日夜の『神聖の眼で世界を見つめる日』のプログラムを始めます。前回から『神聖の眼を養う日』が『神聖の眼で世界

を見つめる日』に変わりました。それに伴って、プログラムの内容もこれまでより一歩踏み込んだ内容になっています。

2023年9月から始めた裏のZoom祈りの会ともいるべき『勉強会』では、「みんなで生きている間に神我一体になりましょう」という趣旨の下で、このような場ではお話することのなかった深いお話をたくさんしてきました。

そのお話を聞いて実行に移され、実際に悟りの世界へ入られた方が何人もおられます。そのような経験を踏まえ、また「いよいよ伸るか反るかの時が来ている」という時代的な背景も勘案しまして、表の祈りの会でもより深い響きを共有する時間を持つように、プログラム内容も変容してきています。

それと同時に勉強会の機会も、5月までは第一土曜日の13時から月一回だったのが、第一・第三土曜日の13時からが月二回に増え、内容もより本質に迫った内容にアップデートしてきています。

勉強会の方では、ピースレターの読者の方で、「表の祈りの会には出ないけれど、勉強会には参加する」という方もおられます。現在、200人近い方が勉強会のメールを受信されて、50人前後の方が毎回Zoomで参加しておられます。

勉強会の案内は、2023年に半年ほど募集しただけでした。それは、勉強会の場は「神聖復活するよ」という強い信念、本気の意欲を持った方に限定したいということで、当時はそのように判断しました。

が、あれから2年以上が経ち、本気で神聖復活を目指される方がかなり多くなってきましたので、これからは「勉強会関連のメール」は、ピースレターで送るようにいたします。開催内容のレポートにつきましても、ピースレターで送りますが、リンクを開いて見る形にしてありますので、ご興味をお持ちの方はご覧ください。

2025年の今このとき、地球人類全体に神聖復活の機運が満ちています。問題だらけのように見える地球世界のなかで、真の解決に眼を向ける人が増えています。自分たち人間が本当は何者なのかという、生命の真実に眼を向ける人々が世界中で着実に増えてきています。

神聖文明の扉を開き切り、開けっぱなしにする機は、確実に熟してきています。その鍵となるのが、私たちの神聖の眼です。前回の『神聖の眼で世界を

見つめる日』のこの時間に、「私達が世界を見つめる『神聖の眼』は、肉体界だけに張り付いて見る狭い世界ばかりではなく、自らの意識の広がりに応じて、瞬時にたくさんの世界を認識できる眼であります」と申し上げました。

また、前回も申し上げたとおり、その神聖の眼は肉体の眼ではありません。幽体の眼、靈体の眼、神体の眼、守護靈の眼、守護神の眼、直靈の眼を統合した眼で、同時存在しているあらゆる次元や世界線を瞬時に見通す眼であります。

私達は、『消えてゆく姿で世界平和の祈り』『人間と真実の生き方』『統一行』『世界各国語による世界各国の平和の祈り』『地球世界感謝行』『光明思想徹底行』『呼吸法の唱名』、そして『神聖復活の印』をはじめとした各種の印をおこないつづけてきた結果として、守護靈・守護神様方をはじめ、様々な神々や宇宙天使の方々のご援助を得て、神聖の眼を自らの眼として生きる段階にまで、私達自身を育て上げるに至りました。

この意識進化の道のりは、まだまだこれから先も続きます。人間は無限に進化向上することができる生命体ですから、諦めて道を閉ざしたり、満足して歩みを止めたりさえしなければ、私達はこれからも、ますます自らを磨き高め上げ、神そのものとしての境地を深め、高め、広げてゆくことが出来ます。

土曜日の夜のプログラムの時間は、一見するとほかの人々と共有しづらい“心・意識・認識といった見えない世界の感覚”をできるだけ言葉に表わし、祈りや印をとおして、ご参加の皆様全員の意識波動をミックスして共有し、分け合い、与え合い、深め合い、高め合い、広げ合ってゆくための時間です。

本日も、私たちひとりひとりの持ち味を波動としてこの場に提供し合って、みんなの長所を混ぜ合い、今日ここに参加される皆様の神聖の眼が統合した“より大いなる神聖の眼”を共有し合える時間にしてまいりたいと思っておりますので、皆様、どうかよろしくお願ひいたします。

それでは時間になりましたので、初めに世界平和の祈りを日本語と英語で行います。

1. 世界平和の祈り

齊藤：それでは始めます。

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

2. 神聖の眼への認識を深める時間

齊藤：ありがとうございます。それでは、神聖の眼についての認識を深める時間を取ってまいります。音楽を流しながら日本語で話します。ですから、皆様はこの後の文章を読みながらお聞きください。

本日は、神聖の眼を確かな私たち自身の眼として自覚するために、私たちの魂の奥に存在している『内部神聖の一部としての守護霊意識』を思い出して、顕在意識に引き出してまいります。

『我即神也の宣言文』の冒頭の一節にある「God」という言葉を「守護霊」に変えて読みますので、眼を閉じたまま、心の目線は自らの神聖を見つめたままでお聞きください。。

「私が語る言葉は、守護霊そのものの言葉であり、私が発する想念は、守護霊そのものの想念であり、私が表わす行為は、守護霊そのものの行為である。」

「私が語る言葉は、守護霊そのものの言葉であり、私が発する想念は、守護霊そのものの想念であり、私が表わす行為は、守護霊そのものの行為である。」

私たちが『我即神也の存在』であるならば、私たちが『我即守護靈也の存在』であることは明白です。なぜなら守護靈意識は、私たちの魂に組み込まれた七つの心の一つだからです。「そんなこと言うんだったら、『我即守護神也』でも『我即五井先生也』でもいいじゃないか」って思われる方がおられるかもしれません。

でも、よく考えてみてください。守護靈意識との一体化も果たせない人が、守護神意識や高次の神々、五井先生の意識と一体化することが出来るでしょうか？

私たちがまず初めに取り組むべきことは、一番近くにいてくださる（自らに一番近い神靈としての）守護靈との一体化を志すことです。即ち、魂に組み込まれている守護靈意識を顕在意識に表わして、守護靈と一体化した心で生きることです。

守護神や本心、直靈、五井先生などとの一体化は、守護靈との一体化を果たした暁に、自動的に誰もの魂の奥に、もれなく直通のルートが開けてきます。

ですから、肉体に生きる私たちは、何事にも先がけて、守護靈様の心を自らの心として生きることが大事なことです。そのためには、日々・瞬々・刻々・四六時中、守護靈様への感謝の想いを思い続けに思って生きることが大切です。

そうすることで、私たちは誰ひとりの例外もなく、守護靈の心を自らの心として生きることが出来るようになります。

私たちが守護靈様と一体化した心で生きる時、神聖復活が成し遂げられ、すべての苦悩が解消します。

私たちが守護靈様と一体化した心で生きる時、人間関係の背後にある因果関係が明らかになります。

私たちが守護靈様と一体化した心で生きる時、病気や不幸の原因が明らかになります。

私たちが守護靈様と一体化した心で生きる時、幸せに生きる方法が明確にわかり、実践できます。

私たちが守護靈様と一体化した心で生きる時、無限なる創造力や叡智が溢れ

て止まらなくなります。

私たちが守護霊様と一体化した心で生きる時、無限なる進化向上の毎日に無上の喜びを感じます。

私たちが守護霊様と一体化した心で生きるとき、人類全ての神聖を嘘偽りなく認めることができます。

問題など何処にも無かった。

記憶に生命の権能を明け渡した想念習慣が勝手に問題を作り出していただけだった。

思い込み・こだわり・決め付け・執着などの把われの想いを手放し、守護霊に明け渡してゆくことで、どんなに困難と見える状況のなかにも、希望の光を見いだせる力を私たちは持っていた。

その無限なるいのちの力を忘れていただけだった。

守護霊意識は、私たちの本心に通ずる意識だった。

私たちはいのちの真実を、ただ単に忘れていただけだった。

それを思い出させてくれるのが守護霊意識だった。

守護霊様は、どんな時も私たちを見放すことなく、見捨てることなく、片時も離れることなく、わがまま放題で明後日の方向を向いて生きてきた私たちを、つきっきりで見守り導いてくださっていた。

私たちは、守護霊様にどんなに感謝してもし切れない。

この恩を少しずつでも返してゆきたい。

そう思うなら、神我一体の意識で生きよ。

自らを神として扱い、無限の能力を発揮して生きよ。

病気も人間関係の苦しみも経済の問題も、必ず解決の糸口がある。

それは、あなた方ひとりひとりの“いのちの光の中”にあるのだ。

守護霊様、ありがとうございます。

守護神様、ありがとうございます。

五井の大神様、ありがとうございます。

世界人類が平和でありますように。

3. 神聖の眼でおこなう世界各地の自然への感謝

行天：齊藤さん、ありがとうございました。ここからは、神聖の眼で地球世界を見つめて、大自然や生きとし生けるものへの感謝を捧げる時間にしてまいります。

1992年の3月に、印を使わない地球世界感謝行が始まった当初は、大自然や生きとし生けるものへ感謝する私達の意識のあり方は、肉体人間としての見方であり、感謝でありました。

あれから33年経った今年、2025年、私たちは神聖の視座に立った意識をもって、ありとあらゆる存在や出来事などに感謝の光を送るまでに至りました。

ここまで私達を育ててくださった守護霊様・守護神様・神界の神々様・宇宙天使の皆様方への感謝の心をもって、新たな気持ちで世界各地の自然や生物への感謝をしてまいります。

ここからは、スライドの文字を読み上げて、神聖復活の印を組んでまいります。それでは始めます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-1. 北中米の大自然への祈り

齊藤：初めは、北中米の大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、北中米の大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、北中米のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

齊藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-2. 南米の大自然への祈り

斎藤：次は、南米の大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、南米の大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、南米のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-3. ヨーロッパの大自然への祈り

斎藤：次は、ヨーロッパの大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、ヨーロッパの大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、ヨーロッパのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-4. 中東の大自然への祈り

斎藤：次は、中東の大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、中東の大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、中東のすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-5. アフリカの大自然への祈り

斎藤：次は、アフリカの大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、アフリカの大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、アフリカのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-6. アジアの大自然への祈り

斎藤：次は、アジアの大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、アジアの大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、アジアのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-7. オセアニアの大自然への祈り

斎藤：次は、オセアニアの大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、オセアニアの大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、オセアニアのすべての大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

★☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆*★*☆

3-8. その他のすべての地域の大自然への祈り

斎藤：次は、その他のすべての地域の大自然への祈りです。画面の文字を読み上げて神聖復活の印を一回組みます。

行天：はい。私たちは、その他のすべての地域の大自然と、神聖によって繋がり合っています。

水、空気、風、大地、山、生き物など、その他のすべての地域の大自然に、心からの感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を送ります。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※10秒間、お祈りする)

斎藤：はい、ありがとうございます。

4. 人類神聖復活の祈り

行天：それでは最後に、人類の神聖復活へ向けて、心を込めて神聖復活の印を1回組みます。

印を組み終わりましたら、そのまま目を閉じてお祈りします。

行天：はい。世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。

世界人類が平和でありますように。

人類の神聖復活、大成就。はい。

<神聖復活の印を一回>

(※14秒間、お祈りする)

齊藤：はい、ありがとうございます。

以上